

ヤツデ

名前のゆらい

葉が大きく切れ込むことをゆらいし、かんじでかくと「八つ手」ちなみに「八つ」は数をあらわしているのではなく「おおい」をあらわしている

ヤツデの見分け方

てんぐのうちわにも
にていて大きな葉っ
ぱです。また、えん
ぎがよいと言われて
いる木です。



花言葉

ヤツデの花言葉は「親しみ」「健康」です。
12月13日の誕生日花です

ヤツデ		和名	八手		37
		別名	テングノハウチワ		
分類	科(APG分類)	ウコギ科	属	ヤツデ属	
	科(旧分類)		属		
	科(旧分類)		属		
名前の由来	<ul style="list-style-type: none"> 葉は掌状に深い切れ込みがあることに由来し、葉は実際に8つに切れ込んで9枚に裂けているものが多い。「八手」の八は数が多いという意味がある。 				
樹木の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 関東以西、四国、九州、沖縄に分布。 日陰に強く、日当たりの悪い森林のなかにもよく自生しているのが見られる。 常緑低木で、樹高2～5mほどになり、多くは株立ちする。20cm以上もある大きな葉に、長い葉柄をつけて互生、あるいは輪生する。形は文字通り掌状だが、若葉の時は卵形をしていて、次に3裂して、次第に数を増して7, 9, 11の奇数に深く裂ける。8裂はしない。 花期は晩秋の10～12月で、茎の先に球状の散形花序がさらに集まって大きな円錐花序をつくる。花は径5mm程の5弁花で白く、両性花または、雄花と雌花があり、枝先に丸まってつく。雄しべは5本、雌しべ(花柱)も5本あり花弁は小さくて反り返っており、花茎を含めて黄白色でよく目立つ。 		 		
用途・その他	<ul style="list-style-type: none"> 他の花が少ない時期に咲くため、気温が高い日にはミツバチ、ハナアブ、ハエなどの昆虫が多く訪れ、蜜を与えて受精を確実にしている。 果実は翌年の4～5月で、果実は径3mmほどの球形で黒熟する。 葉を乾燥させたものは「八角金盤」と呼ばれる生薬になり、去痰などの薬に使われる。しかし、過剰摂取すると下痢や嘔吐、溶血を起こすので注意。 				